

小学生用漢字辞典における漢字の部首の立て方

—— 『康熙字典』との比較を通して ——

濱千代 いづみ

キーワード： 部首 漢字辞典 『康熙字典』 教育漢字 常用漢字

1 はじめに

本研究の目的は、小学生用に編集された漢字辞典（漢和辞典）における漢字の部首の立て方について調査・整理し、『康熙字典』との比較を通して実態を分析することである。

平成17年度現在、国語における漢字教育の一環として小学校四年生の教科書に漢字辞典の使い方が載っており、授業の中でその指導がなされている。光村図書の『国語 四上 かがやき』では「漢字辞典の使い方」の章で次のように説明している。

漢字辞典（漢和辞典）を使うと、漢字の成り立ちや意味、音や訓の読み方、使い方などを調べることができます。画数、組み立てている部分、その漢字を使った言葉についても知ることができます。

漢字辞典では、漢字が部首別に分類され、画数順にならべられています。

漢字を分類するとき、形のうえで目印となるものが部首です。部首には、ふつう、漢字のへんやつくりなどの部分が使われます。

漢字を組み立てているひとつづきの線や点を「画」といいます。このひとつづきで書く部分を一画と数えます。何画で書くかが、その漢字の画数です。

漢字辞典の引き方には、「総画引き」「部首引き」「音訓引き」の三つがあります。

(pp.32-33)

そして、これに続けて「総画引き」「部首引き」「音訓引き」の説明がなされている。その中の「部首引き」に関して次に引用する。

部首が分かるときは、「部首さくいん」で調べましょう。

部首さくいんには、部首が画数の少ないものから順にならんでいます。

まず、さがしている漢字の部首の画数を数えて、それを見つけます。そのページを開くと、同じ部首の漢字が画数順にならんでいます。その中から、目当ての漢字をさがします。(p.34)

部首引きで漢字を探す場合に、その漢字のどの部分が部首として扱えるのか、その画数はいくつか、その呼称は何かということが問題になる。ところで、日本の漢字辞典の多くは、中国の『康熙字典』にある部首立てを基本にしている。実際に刊行されている小学生用漢字辞典を利用してみると、同じ漢字でも辞典間で部首分類が異なっていたり、同じ部首でもその呼称が異なっていたりする。前者の例をあげると、学習指導要領で第二学年に配当されている「画」は部首を「丨」とするものと「田」とするものがある。同学年の「冬」は「夂」とするものと「冫」とするものがある。また、後者の例をあげると、「夂」の呼称に「あくび」「けんづくり」「かける」「けつ」が見られ、そのうち二つを示しているものと一つだけに絞っているものがある。このように漢字辞典を部首引きで利用した場合、児童が教科書の説明をよく理解していても、各児童の利用する辞典が異なっていれば、部首そのものや部首の呼称が相違する事態が生じる。結果に不安を覚えたり、混乱したりする児童もいるであろう。

先行研究に、㊦ 天沼寧 (1991年)、㊧ 同 (1992年) がある。㊦は児童向け辞典6種、成人向け辞典5種を資料として、新設部首の形・呼び名・数、所属漢字について述べたものである。㊧は明治以降の漢和辞典の中で索引の仕組みに工夫の見られるものを取り上げて紹介し、部首索引に代わるものとして、漢字の左側や上部に位置し、筆順の第一画を含む構成要素を指標とする索引を提示している。

㊦は本研究と新設部首の定義のしかたが異なり、「リ」「↑」等が辞典によって新設部首となったり、ならなかったりしている。本研究では常用漢字全部に関して漢字辞典ごとの部首を調べた上で、問題となる部分を比較するという方法をとる。精密さを目指して論述する。

本研究で調査に用いる漢字辞典は次のものである。略称も併せて示す。

- i 『光村漢字学習辞典』・・・〈光村〉・〈光〉
- ii 『旺文社小学漢字新辞典』・・・〈旺文〉・〈旺〉
- iii 『三省堂例解小学漢字辞典』・・・〈三省〉・〈三〉
- iv 『例解学習漢字辞典』・・・〈小学〉・〈小〉
- v 『くもんの学習漢字字典』・・・〈くも〉・〈く〉

なお、次のものを参考に用いた。

vi 『下村式小学漢字学習辞典』・・・〈偕成〉・〈偕〉

漢字を示すときに教育漢字とそれ以外の常用漢字とを区別するために、次の記号を付すこともある。

k・・・教育漢字

j・・・教育漢字以外の常用漢字

2 「康熙字典」の部首

日本の漢字辞典の多くは、中国の『康熙字典』（以下、略称〈康熙〉）にある部首立てを基本にしている。〈康熙〉では原則として部首を字義に基づいて214種類に分類している。それらに番号を付して示すと表1のようである。部首の欄に、〈康熙〉総目に掲示してある部首、「同」「付同」「一者属一部」として示してある変化形（「水」に対し「氵」）を掲げる。なお、そのほかに、総目にはないが用いられている変化形（「乙」に対し「乚」、◎印を付す）、常用漢字における新字体の形（「示」に対し「礻」、○印を付す）をも示すことにする。また、部首の名称は日本の辞典で慣用的に用いられているものをいくつか掲げる。

表1 『康熙字典』の部首一覧

康熙画数	部首番号	部首	代表的な呼称
一画	1	一	いち
	2	丨	たてぼう ぼう
	3	丶	てん
	4	丿	の はらいぼう
	5	乙, 乚◎	おつ おつにょう つりばり
	6	丨	はねぼう
二画	7	二	に
	8	一	なべふた けいさんかんむり
	9	人, イ, 亻◎	ひと にんべん ひとやね
	10	儿	ひとあし にんにょう
	11	入	いる いりがしら
	12	八, ㄨ◎	はち はちがしら
	13	冂	どうがまえ けいがまえ
	14	冫	わかんむり
	15	彳	にすい

	16	几	つくえ きしょう かぜかんむり
	17	口	うけばこ かんにょう
	18	刀, 利	かたな りっとう
	19	力	ちから
	20	勺	つつみがまえ
	21	ヒ, 匕	ひ
	22	匚	はこがまえ
	23	匚	かくしがまえ
	24	十	じゅう
	25	ト	ぼく
	26	冂, 冂	ふしづくり
	27	厂	がんだれ
	28	ム	む
	29	又	また
三画	30	口	くち くちへん
	31	口	くにがまえ
	32	土	つち つちへん
	33	士	さむらい
	34	夂	ふゆがしら
	35	夂	すいにょう
	36	夕	ゆうべ た
	37	大	だい
	38	女	おんな おんなへん
	39	子	こ こへん
	40	宀	うかんむり

	41	寸	すん
	42	小, ヨ 〇	しょう ちいさい
	43	尢, 兀, 允, 允	だいのまげあし
	44	尸	しかばね
	45	艸	てつ
	46	山	やま やまへん
	47	川, 川	かわ
	48	工	こう たくみへん
	49	己	おのれ
	50	巾	はばへん きんべん
	51	干	かん いちじゅう
	52	彡	よう いとがしら
	53	广	まだれ
	54	彡	えんにょう
	55	井	にじゅうあし こまぬき
	56	弋	よく しきがまえ
	57	弓	ゆみ ゆみへん
	58	彡, 彡, 彡	けいがしら
	59	彡	さんづくり
	60	彡	ぎょうにんべん
四画	61	心, 忄, 忄	こころ りっしんべん したごころ

	62	戈	ほこ ほこづくり
	63	戸, 戸○	と とかんむり
	64	手, 扌	て てへん
	65	支	しにょう えだにょう
	66	支, 攴	のぶん ぼくにょう
	67	文	ぶん
	68	斗	とます と
	69	斤	きん おのづくり
	70	方	ほう ほうへん
	71	无, 旡	むにょう
	72	日	ひ ひへん
	73	日	ひらび
	74	月	つき つきへん
	75	木	き きへん
	76	欠	あくび
	77	止	とめる とめへん
	78	歹, 夕	がつへん いちたへん
	79	夂	ほこづくり るまた
	80	母	なかれ

	81	比	ならびひ くらべる
	82	毛	け
	83	氏	うじ
	84	气	きがまえ
	85	水, 氵, 氷	みず さんずい したみず
	86	火, 灬	ひ ひへん れっか れんが
	87	爪, 爪, ㇇○	つめ つめかんむり
	88	父	ちち
	89	爻	こう
	90	冫, 冫○	しょうのへん
	91	片	かた かたへん
	92	牙	きば きばへん
	93	牛, 牛	うし うしへん
	94	犬, 犴	いぬ けものへん
五画	95	玄	げん
	96	玉, 王	たま たまへん おうへん
	97	瓜	うり
	98	瓦	かわら
	99	甘	あまい

	100	生	うまれる
	101	用	もちいる
	102	田	た たへん
	103	疋	ひき
	104	疒	やまいだれ
	105	夂	はつがしら
	106	白	しろ
	107	皮	けがわ ひのかわ
	108	皿	さら
	109	目, 𠂔	め めへん よこめ
	110	矛	ほこ ほこへん
	111	矢	や やへん
	112	石	いし いしへん
	113	示, ㇀ ㇀○	しめす しめすへん
	114	内	じゅうのあし
	115	禾	のぎ のぎへん
	116	穴	あな あなかんむり
	117	立	たつ たつへん
六画	118	竹	たけ たけかんむり
	119	米	こめ こめへん

	120	糸	いと いとへん
	121	缶	ほとぎ
	122	网, 𦉳	あみめ あみがしら
	123	羊	ひつじ ひつじへん
	124	羽, 羽○	はね
	125	老, 耂 耂○	おいかんむり
	126	而	しこうして
	127	耒	すきへん
	128	耳	みみ みみへん
	129	聿	ふでづくり
	130	肉, 月	にく にくづき
	131	臣	しん
	132	自	みずから
	133	至	いたる
	134	臼	うす
	135	舌	した
	136	舛	まいあし
	137	舟	ふね ふねへん
	138	艮	こんづくり
	139	色	いろ
	140	艸, 艸, 艸○	くさ くさかんむり
	141	虍	とらかんむり とらがしら
	142	虫	むし むしへん

	143	血	ち
	144	行	ぎょうがまえ ゆきがまえ
	145	衣, 衤◎	ころも ころもへん
	146	両, 西, 𠂔○	おおいかんむり にし
七画	147	見	みる
	148	角	つの つのへん
	149	言	ごんべん
	150	谷	たに
	151	豆	まめ
	152	豕	いのこへん ぶた
	153	豸	むじなへん
	154	貝	かい かいへん
	155	赤	あか
	156	走	はしる そうにょう
	157	足, 𠂔◎	あし あしへん
	158	身	み
	159	車	くるま くるまへん
	160	辛	からい
	161	辰	しんのたつ
	162	辵, 辵, 辵○	しんにょう しんにゅう
	163	邑, 阝	むら おおざと
	164	酉	とりへん ひよみのとり

	165	采	のごめ のごめへん
	166	里	さと さとへん
八画	167	金	かね かねへん
	168	長	ながい
	169	門	もん もんがまえ
	170	阜, 阡	おか こざとへん
	171	隶	れいづくり
	172	隹	ふるとり
	173	雨	あめ あめかんむり
	174	青, 青○	あお
	175	非	あらず
九画	176	面	めん
	177	革	かわへん つくりがわ
	178	韋	なめしがわ
	179	韭	にら
	180	音	おと おとへん
	181	頁	おおがい
	182	風	かぜ
	183	飛	とぶ
	184	食, 食○	しょく しょくへん
	185	首	くび
	186	香	かおり
十画	187	馬	うま うまへん

	188	骨	ほね ほねへん
	189	高	たかい
	190	髟	かみがしら
	191	鬥	とうがまえ たたかいがまえ
	192	鬯	ちょう においざけ
	193	鬲	かなえ
	194	鬼	おに きしょう
十一 画	195	魚	うお うおへん
	196	鳥	とり とりへん
	197	鹵	しお
	198	鹿	しか
	199	麥, 麦○	むぎ ばくしょう
	200	麻	あさ あさかんむり
十二 画	201	黄, 黄○	き
	202	黍	きび

	203	黑, 黒○	くろ
	204	黽	ぬいとり ふつへん
十三 画	205	黽	べんあし かえる
	206	鼎	かなえ
	207	鼓	つづみ
	208	鼠	ねずみ
十四 画	209	鼻	はな
	210	齊, 齊○	せい
十五 画	211	齒, 齒○	は はへん
十六 画	212	龍, 竜○	りゅう
	213	龜, 龜○	かめ
十七 画	214	龠	やく

(注) 21「ヒ, 七」はもと別字である。
〈康熙〉は分けない。

3 「康熙字典」にない部首

〈康熙〉にはないが、調査に用いた漢字辞典のどれかで索引に部首として掲示してあるのは表2の11種である。

表2 〈康熙〉にない部首

番号	部首	画数	呼称	索引に部首のある漢字辞典
①	了	二画	りょう	〈旺文〉
②	ク	二画	く	〈旺文〉〈三省〉〈小学〉

③	マ	二画	ま	〈旺文〉〈三省〉〈小学〉
④	リ	二画	り	〈小学〉
⑤	ソ	二画	そ	〈小学〉
⑥	ㄥ	二画	のいち	〈三省〉
⑦	ㄨ	三画	そいち	〈旺文〉〈三省〉
⑧	ツ	三画	つ、つかんむり	〈光村〉〈旺文〉〈三省〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉
⑨	𠂔	四画	あおのかんむり	〈三省〉
⑩	𠂔	五画	はるのかんむり	〈三省〉
⑪	母	五画	はは	〈光村〉〈旺文〉〈三省〉〈偕成〉

この中で⑪「母」は索引に部首として掲示してあるが、4書とも本文では「母」部と統合してある。また、〈小学〉〈くも〉の2書では「母」を「母」部の所属漢字として扱っている。〈康熙〉も同様である。以下、⑪「母」を分析の対象から除いて進めることにする。

〈旺文〉はこの表の5種(①②③⑦⑧)について新しく作った部であると断っている。

〈三省〉は7種(②③⑥⑦⑧⑨⑩)について検索記号として設けたと断っている。そこで、実際に所属する漢字を持っている部首を取り出し、所属漢字を示すと表3のようである。

表3 〈康熙〉にない部首と所属漢字

番号	部首	所属漢字
①	了	j 了 〈旺文〉・・・1字
②	ク	k 争 〈旺文〉 〈小学〉・・・1字
③	マ	k 予 〈小学〉・・・1字
④	リ	k 婦 〈小学〉・・・1字
⑤	ソ	k 並 〈小学〉、j 兼 〈小学〉・・・2字
⑦	ㄨ	k 並 〈旺文〉、j 兼 〈旺文〉・・・2字
⑧	ツ	k 当 〈旺文〉、 k 单 〈光村〉 〈旺文〉 〈小学〉 〈くも〉 〈偕成〉、 k 党 〈旺文〉、 k 巢 〈光村〉 〈旺文〉 〈小学〉 〈くも〉 〈偕成〉、 k 営 〈光村〉 〈旺文〉 〈小学〉 〈くも〉 〈偕成〉、 k 巖 〈光村〉 〈旺文〉 〈小学〉 〈くも〉 〈偕成〉、 j 尚 〈旺文〉 ・・・k 6字、j 1字、計7字

これらの部首に共通する特徴は片仮名の字形を基にした立て方をし、呼称をあてていることである。そのため、小学生にも理解しやすくなっている。6書全部の辞典が索引で共通に掲示している部首は⑧「ツ」である。そして、〈三省〉を除く5書が教育漢字「単・巢・宮・巖」の4字をこの部に収めている。「ツ」は新しい部首として認識度が高い。〈三省〉が掲示している部首には所属する漢字がまったくない。検索記号にとどめ、実際に新しく部首を立てたかという点では〈康熙字典〉の分類に最も忠実である。〈旺文〉〈小学〉の一方のみ、あるいは両方のみで所属漢字のある部首は、⑧「ツ」以外の6種(①②③④⑤⑦)全部である。〈旺文〉〈小学〉は新しい部首の創作に積極的である。なお、〈旺文〉は③「マ」を部首として設けているが、所属する漢字はない。

次にこれらの漢字が各辞典でどの部首に所属しているかの視点で見ることにする。〈康熙字典〉に存する場合は〈1〉に示し、存しない場合は*印で表した。また、いわゆる旧字体の存する場合は〈2〉に示した。

表4 各辞典における漢字の部首

漢字	部首、及びその部首に分類している辞典	〈康熙字典〉の漢字と部首 〈1〉	〈康熙字典〉の漢字と部首 〈2〉
j 了	了 〈旺文〉 丨 〈光村〉 〈三省〉 〈小学〉 〈くも〉 〈偕成〉	了 丨	
k 争	ク 〈旺文〉 〈小学〉 丨 〈光村〉 〈三省〉 〈くも〉 〈偕成〉	* *	争 爪
k 予	マ 〈小学〉 丨 〈光村〉 〈旺文〉 〈三省〉 〈くも〉 〈偕成〉	予 丨	
k 帰	リ 〈小学〉 巾 〈光村〉 〈旺文〉 〈三省〉 〈くも〉 〈偕成〉	* *	歸 止
k 並	ソ 〈小学〉 ㄣ 〈旺文〉 一 〈光村〉 〈三省〉 〈くも〉 〈偕成〉	並 一	竝 立
j 兼	ソ 〈小学〉 ㄣ 〈旺文〉 八 〈光村〉 〈三省〉 〈くも〉 〈偕成〉	兼 八	

k当	ツ〈旺文〉 小〈光村〉〈三省〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉	* *	當 田
k単	ツ〈光村〉〈旺文〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉 十〈三省〉	* *	單 口
k党	ツ〈旺文〉 小〈小学〉〈くも〉 儿〈光村〉〈三省〉〈偕成〉	党 儿	黨 黑
k巢	ツ〈光村〉〈旺文〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉 木〈三省〉	* *	巢 ≪
k營	ツ〈光村〉〈旺文〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉 口〈三省〉	* *	營 火
k巖	ツ〈光村〉〈旺文〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉 女〈三省〉	* *	巖 口
j尚	ツ〈旺文〉 小〈光村〉〈三省〉〈小学〉〈くも〉〈偕成〉	尚 小	

表4の漢字は部首の立て方によって次のように大きく3つに分類できる。

a. 〈康熙〉に存する同じ字体の漢字の部首を継承しているもの

j了、k予、k並、j兼、k党、j尚

b. 〈康熙〉に同じ字体がなく、いわゆる旧字体と異なるため部首を作り出したもの

b-1 〈旺文〉〈小学〉以外の4書で共通の部首になっているもの

k争、k婦、k当

b-2 〈三省〉以外の5書で共通の部首になっているもの

k単、k巢、k營、k巖

a. に分類した漢字には、〈康熙〉の部首を5書で継承しているもの（j了、k予、j尚）、4書で継承しているもの（k並、j兼）、3書で継承しているもの（k党）という違いがある。が、調査した辞典の半分が継承しているのでこのように整理した。b-1に分類した漢字の部首は「亻」（k争）、「巾」（k婦）、「小」（k当）のように異なるが、b-2の部首はすべて「ツ」である。

以上をまとめると次のようになる。

- ① 〈康熙〉に同じ字体の漢字が存する場合はその部首を継承している。存しない場合は旧字体にひかれることなく各辞典で部首を設定している。
- ② 各辞典で部首を設定している場合、〈旺文〉〈小学〉は〈康熙〉にない部首を新しく創出することが多い。その他の辞典は〈康熙〉にある部首をあてはめることが多い。
- ③ 新しく部首を創出する場合、片仮名の字形を基にした立て方をし、呼称をあてている。そのため、小学生にも理解しやすくなっている。
- ④ 「ツ」は新しい部首としての認識度が高い。

4 「康熙字典」にあるが漢字辞典にない部首

4.1 「康熙字典」にあるが漢字辞典にない部首

〈康熙〉にあるが、調査に用いた漢字辞典のどれにも索引に部首として掲示してないのは次の11種である。以下に「〈康熙〉番号、部首、代表的な呼称」の形式で列挙する。

「92, 牙, きば」 「114, 内, じゅうのあし」 「179, 韭, にら」
 「191, 鬥, とうがまえ」 「192, 鬯, ちょう」 「193, 鬲, かなえ」
 「197, 鹵, しお」 「204, 鬻, むいとり」 「205, 瞍, べんあし」
 「206, 鼎, かなえ」 「214, 龠, やく」

常用漢字はこれらの部首に所属しないと各辞典の編集者が判断した結果である。

〈康熙〉にあるが、調査に用いた漢字辞典のどれかで索引に部首として掲示してないのは次の32種である。

表5 〈康熙〉にあるが漢字辞典のどれかに掲示してない部首

〈康熙〉番号	部首	部首の画数	部首の呼称	光村	旺文	三省	小学	くも	借成
16	几	2	つくえ	●	●	●	●	×	●
16	几	2	きによう	●	●	×	×	×	×
16	几	2	かぜがまえ	×	×	●	×	×	×
25	卜	2	ぼく	●	●	●	×	×	×
25	卜	2	うらない	×	×	×	●	×	×
45	屮	3	てつ	●	×	●	●	×	×
58	ㄩ	3	けいがしら	●	●	●	×	×	×
71	无	4	むによう	×	●	×	×	×	×

71	𠂇	5	むにょう	●	●	●	●	×	×
71	𠂇	5	ぶ	●	×	×	●	×	×
87	爪	4	つめ	×	●	●	●	×	×
87	爪	4	つめかんむり	●	●	×	●	×	×
89	爻	4	こう	●	×	●	×	×	×
90	𠂇(𠂇)	3	しょうのへん	×	×	△	●	×	×
97	瓜	6	うり	×	×	●	×	×	×
98	瓦	5	かわら	●	●	●	●	×	×
99	甘	5	あまい	●	●	●	●	×	×
99	甘	5	かん	●	×	×	●	×	×
110	矛	5	ほこ	●	●	●	●	×	×
110	矛	5	ほこへん	●	●	●	●	×	×
121	缶	6	ほとぎ	●	●	●	●	×	×
121	缶	6	ほとぎへん	×	×	×	●	×	×
126	而	6	しこうして	●	●	●	×	×	×
126	而	6	しかして	×	×	×	●	×	×
129	聿	6	ふでづくり	●	●	●	×	×	×
129	聿	6	ふでつくり	×	×	×	●	×	×
136	舛	7	まいあし	●	●	●	●	×	×
141	虍	6	とらかんむり	●	●	×	×	×	×
141	虍	6	とらがしら	●	●	●	●	×	×
153	豸	7	むじなへん	×	×	×	●	×	×
165	采	7	のごめ	●	●	●	●	×	×
165	采	7	のごめへん	×	●	●	×	×	×
171	隶	8	れいづくり	●	●	●	●	×	×
178	韋	10	なめしがわ	×	×	●	×	×	×
186	香	9	かおり	●	●	●	●	×	×
186	香	9	か	×	×	×	●	×	×
190	髟	10	かみかんむり	×	●	×	×	×	×
190	髟	10	かみがしら	●	●	●	●	×	×
194	鬼	10	おに	●	●	●	●	×	×
194	鬼	10	きにょう	●	●	●	×	×	×
198	鹿	11	しか	●	●	●	●	×	×
200	麻	11	あさ	●	●	●	●	×	×

200	麻	11	あさかんむり	●	●	●	●	×	×
202	黍	12	きび	●	×	●	×	×	×
207	鼓	13	つづみ	●	●	●	●	×	×
208	鼠	13	ねずみ	×	×	●	×	×	×
210	齊	8	せい	●	●	●	●	×	×
212	竜	10	りゅう	●	●	●	●	×	×
213	亀	11	かめ	●	●	●	×	×	×

この表の記号の意味は、●：辞典の索引に部首及びその呼称が掲示してあるもの、
 ×：辞典の索引に部首及びその呼称が掲示していないもの、△：辞典の索引に部首及びその呼称が掲示してあるが検索記号と断っているものである。

〈くも〉〈偕成〉は常用漢字のうち教育漢字のみを収録している。原則として教育漢字以外の漢字の部首は索引に掲示していない。そのため〈くも〉〈偕成〉の2書で×印の付き、他の4書で●印の付いた部首もこの表に挙げた。以下の検討の過程では〈くも〉〈偕成〉の2書で×印の付いている点に一々言及しない。4書という時は〈光村〉〈旺文〉〈三省〉〈小学〉を指す。また、これらの部首に所属する常用漢字（教育漢字を含めて）が存在しない場合、人名用漢字、表外漢字に範囲を広げて記述することもある。

4. 2 部首の検討

この節では32種の部首の検討を行う。

16凡 検討対象の漢字 「k 廾」「j 凡」

「k 廾」の部首は〈光〉〈旺〉〈三〉〈偕〉が「凡」、〈小〉〈く〉が「廾」というように分かれる。^(注1)〈康熙字典〉では新字体が「凡」部、旧字体が「廾」部に所属している。表5で〈く〉のみ×印であるのは、編集者が教育漢字「廾」の部首を「廾」と認定したためである。

「j 凡」の部首は4書すべて「凡」である。

〈三〉のみ「つくえ」と「かぜがまえ」とを別の部首として立てているが、〈康熙字典〉では同部である。また、〈三〉で「風」は他の辞典と同様に「風」部に所属している。

25ト 検討対象の漢字 「j 占」

「j 占」の部首は4書すべて「ト」である。〈康熙字典〉も同様である。

45巾 検討対象の漢字 「j 屯」

「j 屯」の部首は〈光〉〈三〉〈小〉が「艸」、〈旺〉が「丿」である。「艸」は籠る意、「丿」は分ける・払う意を示す。「j 屯」の部首を「艸」とする場合は意味によるのであり、「丿」とする場合は形体によるのである。何を主眼とするかの違いが現れている。〈康熙〉では「艸」部に所属している。表5で〈旺〉が×印であるのは、編集者が「屯」の部首を「丿」と認定したためである。

58 彡 検討対象の漢字 「j 肅」

「j 肅」の部首は〈旺〉〈三〉が「彡」、〈光〉〈小〉が「聿」である。「彡」は動物の頭の意、「聿」は筆を持つさまの意を示す。「j 肅」の部首を「彡」とする場合は形体によるのであり、「聿」とする場合は意味によるのである。〈康熙〉では「肅」が「米」部に、旧字体が「聿」部に所属している。また、〈旺〉〈三〉は「彡」部に人名用漢字「彡」を載せている。〈光〉は索引に部立てをし、巻末掲載の人名用漢字で「彡」が引けるようにしてある。〈小〉は索引に部立てしないが、巻末掲載の人名用漢字で「彡」の部首を「彡」としている。表5で〈小〉が×印であるのは、「肅」の部首を「聿」と認定したことと人名用漢字の部首を索引に掲示しないことによる。

71 无・无 検討対象の漢字 「j 既」

「j 既」の部首は4書すべて「无」である。^(注2)

87 爪 検討対象の漢字 「j 爵」

「j 爵」の部首は4書すべて「爪」である。^(注3)

89 爻 検討対象の漢字 k・j なし、人名用漢字「爽」「爾」

〈光〉は索引に部立てをし、巻末掲載の人名用漢字で「爽」を引けるようにしてある。「爾」は引けないが、部首を「爻」としている。〈三〉は「爻」部に「爽」「爾」を載せている。〈小〉は索引に部立てしないが、巻末掲載の人名用漢字で「爽」「爾」の部首を「爻」としている。〈旺〉は索引に部立てせず、「爽」を「大」部に、「爾」を「一」部に入れている。表5で〈旺〉が×印であるのは、「爽」「爾」の部首を「爻」と異なるものに認定したことによる。〈小〉が×印であるのは、人名用漢字の部首を索引に掲示しないことによる。

90 彡(月) 検討対象の漢字 k・j なし

〈三〉は検索記号である。〈小〉は部首索引に部首のみ示され、呼称が記されていない。また、所属文字もない。

97 瓜 検討対象の漢字 k・j なし、表外漢字「瓜」

〈三〉は索引に部立てをし、表外漢字「瓜」を載せている。他の書は部立てをしない。〈旺〉〈小〉は巻末掲載の表外漢字で「瓜」の部首を「瓜」としている。

98瓦 検討対象の漢字 「j瓶」

「j瓶」の部首は4書すべて「瓦」である。〈康熙〉も同様である。

99甘 検討対象の漢字 「j甘」「j甚」

「j甘」「j甚」の部首は4書すべて「甘」である。〈康熙〉も同様である。

110矛 検討対象の漢字 「j矛」

「j矛」の部首は4書すべて「矛」である。〈康熙〉も同様である。

121缶 検討対象の漢字 「j缶」

「j缶」の部首は4書すべて「缶」である。〈康熙〉も同様である。

126而 検討対象の漢字 「j而」

「j而」の部首は4書すべて「而」である。〈康熙〉も同様である。

129聿 検討対象の漢字 「j聿」

「j聿」の部首は〈光〉〈小〉が「聿」、〈三〉〈旺〉が「ㄩ」である。「58ㄩ」の記述を参照されたい。〈三〉〈旺〉とも「聿」部に人名用漢字「肇」を載せている。

136舛 検討対象の漢字 「j舞」

「j舞」の部首は4書すべて「舛」である。〈康熙〉も同様である。

141虍 検討対象の漢字 「j虞」「j虐」「j虚」「j虜」

「j虞」「j虐」「j虚」「j虜」の部首は4書すべて「虍」である。^(注4)

153豸 検討対象の漢字 k・j なし

〈小〉のみ部立てをするが、所属する漢字はない。

165采 検討対象の漢字 「j积」

「j积」の部首は4書すべて「采」である。^(注5)

171隶 検討対象の漢字 「j隸」

「j隸」の部首は4書すべて「隶」である。〈康熙〉も同様である。

178韋 検討対象の漢字 k・j なし、表外漢字「韓」

〈三〉は索引に部立てをし、表外漢字「韓」を載せている。他の書は部立てをしない。〈旺〉〈小〉は巻末掲載の表外漢字で「韓」の部首を「韋」としている。

186香 検討対象の漢字 「j香」

「j香」の部首は4書すべて「香」である。〈康熙〉も同様である。

190髟 検討対象の漢字 「j髮」

「j髮」の部首は4書すべて「髟」である。〈康熙〉に記述がない。

194鬼 検討対象の漢字 「j鬼」「j魂」「j魔」「j魅」

「j鬼」「j魂」「j魔」「j魅」の部首は4書すべて「鬼」である。〈康熙〉も同様

である。

198鹿 検討対象の漢字 「j麗」

「j麗」の部首は4書すべて「鹿」である。〈康熙〉も同様である。

200麻 検討対象の漢字 「j麻」

「j麻」の部首は4書すべて「麻」である。〈康熙〉も同様である。

202黍 検討対象の漢字 k・j なし、人名用漢字「黎」

〈光〉は索引に部立てをし、巻末掲載の人名用漢字で「黎」を引けるようにしてある。〈三〉も「黍」部に載せている。〈小〉は索引に部立てしないが、巻末掲載の人名用漢字で部首を「黍」としている。〈旺〉は索引に部立てせず、「黎」を「水」部に入れている。

207鼓 検討対象の漢字 「j鼓」

「j鼓」の部首は4書すべて「鼓」である。〈康熙〉も同様である。

208鼠 検討対象の漢字 k・j なし、表外漢字「鼠」

〈三〉は索引に部立てをし、表外漢字「鼠」を載せている。他の書は部立てをしない。〈旺〉〈小〉は巻末掲載の表外漢字で「鼠」の部首を「鼠」としている。

210齋 検討対象の漢字 「j齋」「j齊」

「j齋」「j齊」の部首は4書すべて「齊」部である。〈康熙〉では旧字体が「齊」部にある。

212竜 検討対象の漢字 「j竜」

「j竜」の部首は4書すべて「竜」部である。〈康熙〉では旧字体が「龍」部にある。

213亀 検討対象の漢字 k・j なし、人名用漢字「亀」

〈光〉は索引に部立てをし、巻末掲載の人名用漢字で「亀」を引けるようにしてある。〈旺〉〈三〉も「亀」部に載せている。〈小〉は索引に部立てしないが、巻末掲載の人名用漢字で部首を「亀」としている。

4. 2 まとめ

『康熙字典』にあるが、調査に用いた漢字辞典のどれかで索引に部首として掲示していないもの32種に関して検討してきた。それを各辞典の部首の立て方の観点でまとめると次のようである。

- ① 〈くも〉〈偕成〉は教育漢字のみを収録している。原則として教育漢字以外の常用漢字の部首を立てていない。
- ② 〈光村〉〈旺文〉〈三省〉では人名用漢字が、〈三省〉では表外漢字も部首索引から

検索できるようにしてある。それゆえ、これらの辞典では常用漢字が所属しない部首も索引に立ててある。

- ③ 他の辞典が索引に部首を立てているのに〈旺文〉が立てていない場合、〈旺文〉でその部首に所属する漢字はない。
- ④ 〈三省〉のみが部首を立てている場合、〈三省〉でその部首に所属するのは表外字である。
- ⑤ 他の辞典が索引に部首を立てているのに〈小学〉が立てていない場合、〈小学〉でその部首を持つのは人名用漢字である。
- ⑥ 〈小学〉における「90ㄩ (月)」「153豸」部の扱いは他の部首と比較すると不統一である。

また、各漢字における部首の捉え方の観点でまとめると次のようである。

- ① 教育漢字では「処」の部首の捉え方が「几」「夂」に分かれた。教育漢字のみを採録する〈くも〉は「几」部を立てていない。
- ② 常用漢字では「屯」「肅」の部首の捉え方がそれぞれ「艸」「丩」、「ヨ」「聿」に分かれた。意味と形体とのどちらを主にするかによって、部首の捉え方が異なった。
- ③ 人名用漢字では「爽」「爾」、「黎」の捉え方が〈光村〉〈三省〉〈小学〉と〈旺文〉とで異なっている。

5 「康熙字典」で別立てになっているが漢字辞典で区別のない部首

〈康熙字典〉で別立てになっているが漢字辞典で統一されている部首は「22匸」と「23匸」、
「34夂」と「35夂」である。新字体でそれぞれ「匸」「夂」の形になり区別がなくなったためである。ただし、〈小学〉だけは「匸」と「匸」とを別立てにしている。また、〈旺文〉では「匸・匸」のように併記している。各辞典の部首の呼称を示すと次のようである。

表6 「匸」「夂」の各辞典の部首の呼称

部首	呼称	光村	旺文	三省	小学	くも	借成
匸	はこがまえ	●	匸 ●	●	匸 ●	×	×
	かくしがまえ	●	匸 ●	×	匸 ●	●	●
夂	ふゆがしら	●	●	●	●	×	×
	すいによう	●	×	×	×	●	×
	なつあし	×	×	×	×	×	●

この表の記号の意味は、●：辞典の索引に部首の呼称が掲示してあるもの、×：辞典の索引に部首の呼称が掲示してないものである。

「22匚」と「23匚」

「はこがまえ」は「22匚」、「かくしがまえ」は「23匚」の呼称である。〈光村〉は両方、〈三省〉〈くも〉〈偕成〉は片方を載せている。常用漢字を収録する〈三省〉は「はこがまえ」、教育漢字のみを収録する2書は「かくしがまえ」を採用した。本文の中で〈旺文〉は別の部であるものをあわせて集めたことを、〈三省〉は「匚」にまとめて集めたことを断っている。

この部で検討対象になる漢字は「k医」「k区」「j匠」「j匿」「j匹」及び「j巨」である。別立てにした〈小学〉では「j匠」「j巨」を「匚」部に、「k医」「k区」「j匿」「j匹」を「匚」部に所属させている。〈光村〉〈旺文〉〈三省〉は「j巨」を「丨」部に所属させているので、「匚」部に入れたのは〈小学〉のみである。併記した〈旺文〉では見出し字「j匠」の左上部に「匚」の形を、「k医」「k区」「j匿」「j匹」の左上部に「匚」の形を示している。区別のない〈光村〉〈三省〉は「k医」「k区」「j匠」「j匿」「j匹」を、また〈くも〉〈偕成〉は「k医」「k区」を「匚」部に所属させている。これらの漢字を〈康熙〉で見ると、「j匠」が「匚」部に、「k医」「k区」「j匿」三字の旧字体と「j匹」が「匚」部に、「j巨」が「工」部に所属している。

表7 「匚」を部首とする漢字

漢字	部首	光村	旺文	三省	小学	くも	偕成	康熙
k医	匚		●		●			●
	匚	●		●		●	●	
k区	匚		●		●			●
	匚	●		●		●	●	
j匠	匚	●	●	●	●			●
j匿	匚		●		●			●
	匚	●		●				
j匹	匚		●		●			●
	匚	●		●				
j巨	丨	●	●	●				
	匚				●			
	工							●

●記号は各辞典における漢字の部首を表す。

〈三省〉の「はこがまえ」の呼称は統一された新字体の「匚」の形に合わせたものであろう。〈くも〉〈偕成〉の「かくしがまえ」の呼称は教育漢字が旧字体で「匚」部に属していることによるのであろう。

「34欠」と「35欠」

「ふゆがしら」は「34欠」、「すいによう」「なつあし」は「35欠」の呼称である。〈光村〉は2種、その他は1種を載せている。常用漢字を収録する〈旺文〉〈三省〉〈小学〉は「ふゆがしら」、教育漢字のみを収録する2書は「すいによう」「なつあし」を採用した。ただし、〈旺文〉は索引で「ふゆがしら」の呼称を掲げているにもかかわらず、本文では「ちかんむり」「のまたかんむり」という異なる呼称を示し、矛盾している。

この部で検討対象になる漢字は「k夏」「k冬」「k変」及び「k処」である。「34欠」は下向きの足の形、「35欠」は足をひきずる意味を示している。

「k夏」の部首は全書「欠」である。〈康熙字典〉では「欠」部に載せている。

「k冬」の部首は〈光村〉〈旺文〉が「冫」、他は「欠」である。〈康熙字典〉では「冫」部に載せている。この字の「欠」は「欠」ではなく「欠」によると考えられる。

「k変」の部首は全書「欠」である。〈康熙字典〉では旧字体を「言」部に載せている。

「k処」の部首は〈小学〉〈くも〉が「欠」、その他が「几」である。〈康熙字典〉では「処」を「几」部、旧字体を「虍」部に載せている。

表8 「欠」を部首とする漢字

漢字	部首	光村	旺文	三省	小学	くも	偕成	康熙
k夏	欠	●	●	●	●	●	●	
	欠							●
k冬	欠			●	●	●	●	
	冫	●	●					●
k変	欠	●	●	●	●	●	●	變(言)
k処	欠				●	●		
	几	●	●	●			●	●

●記号は各辞典における漢字の部首を表す。

〈旺文〉〈三省〉〈小学〉の「ふゆがしら」の呼称は、統一された新字体の「夂」の形に合わせたものであろう。〈くも〉の「すいによう」・〈偕成〉の「なつあし」の呼称は「夏」が「夂」部に属していたことによるのであろう。

『康熙字典』で別立てになっているが漢字辞典で区別のない部首について検討してきた。それをまとめると次のようである。

- ① 部首の呼称について見ると、〈光村〉は別立ての時のものを両方とも踏襲し、〈旺文〉〈三省〉〈小学〉は統一された形体のもの、〈くも〉〈偕成〉は旧字体に依拠するものを選択している。
- ② 所属する漢字から見ると、辞典によって部首の捉え方は異なっている。旧字体と新字体との間に形体の大きな差異がある場合、著しくなる。

6 おわりに

小学生用に編集された漢字辞典（漢和辞典）における漢字の部首の立て方について調査・整理し、『康熙字典』との比較を通して実態を分析してきた。その結果を以下にまとめて述べる。

a. 『康熙字典』にないが、漢字辞典のどれかで索引に部首として掲示してあるもの11種を分析し、次のことが判明した。

- ① 〈康熙〉に同じ字体の漢字が存する場合は「k 予 𠂔」「k 並 一」など、その部首を継承している辞典が多い。存しない場合は旧字体にひかれることなく各辞典で部首を設定している。
- ② 各辞典で部首を設定している場合、〈旺文〉〈小学〉は「k 争 ク」のように〈康熙〉にない部首を新しく創出することが多い。その他の辞典は〈康熙〉にある部首をあてはめることが多い。
- ③ 新しく部首を創出する場合、片仮名の字形を基にした立て方をし、呼称をあてている。そのため、小学生にも理解しやすくなっている。
- ④ 「ツ」は新しい部首としての認識度が高い。

b. 『康熙字典』にあるが、漢字辞典のどれかで索引に部首として掲示してないもの32種を分析し、次のことが判明した。

b. 1 各辞典の部首の立て方

- ① 〈くも〉〈偕成〉は教育漢字のみを収録している。原則として教育漢字以外の常用漢字の部首を立てていない。

- ② 〈光村〉〈旺文〉〈三省〉では人名用漢字が、〈三省〉では表外漢字も部首索引から検索できるようにしてある。これらの辞典では常用漢字が所属しない部首も索引に立ててある。
- ③ 他の辞典が索引に部首を立てているのに〈旺文〉が立てていない場合、〈旺文〉でその部首に所属する漢字はない。
- ④ 〈三省〉のみが部首を立てている場合、その部首に所属するのは表外字である。
- ⑤ 他の辞典が索引に部首を立てているのに〈小学〉が立てていない場合、〈小学〉でその部首を持つのは人名用漢字である。
- ⑥ 〈小学〉における「90ㄩ (月)」「153彡」部の扱いは、呼称がなかったり所属漢字がなかったりというように、他の部首と比較すると不統一である。

b. 2 各漢字における部首の捉え方

- ① 教育漢字では「処」の部首の捉え方が「几」「攴」に分かれた。教育漢字のみを採録する〈くも〉は「几」部を立てていない。
- ② 常用漢字では「屯」「肅」の部首の捉え方がそれぞれ「艸」「丩」、「ㄩ」「聿」に分かれた。意味と形体とのどちらを主にするかによって、部首の捉え方が異なった。
- ③ 人名用漢字では「爽」「爾」、「黎」の捉え方が〈光村〉〈三省〉〈小学〉と〈旺文〉とで異なっている。

c. 『康熙字典』で別立てになっているが、漢字辞典で区別のない部首「匚」「攴」について分析し、次のことが判明した。

- ① 部首の呼称について見ると、〈光村〉は別立ての時のものを両方とも踏襲し、〈旺文〉〈三省〉〈小学〉は統一された形体のもの、〈くも〉〈偕成〉は旧字体に依拠するものを選択している。
- ② 所属する漢字から見ると、辞典によって部首の捉え方は異なっている。旧字体と新字体との間に形体の大きな差異がある場合、著しくなる。

本稿では『康熙字典』との比較でとり上げた。漢字辞典・教科書によって部首の捉え方の異なる漢字、呼称の多い部首に関して稿を改めて論述したいと考えている。

<調査文献>

飛田多喜雄・藤原宏 監修 (2005年)『光村漢字学習辞典』第四版 第五刷 光村教育
図書発行

尾上兼英 監修 (2001年)『旺文社小学漢字新辞典』第三版 旺文社発行

林四郎・大村はま 編 (2002年)『三省堂例解小学漢字辞典』第二版 三省堂発行
藤堂明保 編 (2002年)『例解学習漢字辞典』第五版 第四刷 小学館発行
本堂寛 監修 (2001年)『くもんの学習漢字字典』改訂新版 第二版 くもん出版発行
下村昇 編 (2005年)『下村式小学漢字学習辞典』改訂三版 第九刷 偕成社発行
国際文化出版公司 (1993年)『康熙字典』 新華書店北京発行所発行、上海同文書局印
本による影印

<引用文献>

宮地裕 ほか (2005年)『国語 四上 かがやき』光村図書出版発行
天沼寧 (1991年)「漢和辞典における新設部首とその所属漢字」『大妻国文』22
天沼寧 (1992年)「漢和辞典の部首索引について」『大妻女子大学紀要 文系』24

<参考文献>

阿辻哲次 (2004年)『部首のはなし』中央公論新社発行

<注>

注1 部首の呼称は〈小〉が「ふゆがしら」、〈く〉が「すいによう」となっており、着目する部位が異なる。

注2 〈康熙〉では旧字が「无」部に所属している。

注3 〈康熙〉では旧字が「爪」部に所属している。

注4 〈康熙〉では旧字が「虍」部に所属している。

注5 〈康熙〉では旧字が「采」部に所属している。